

教育ニュース「協働 共豊」 No.18

今週の児童四字熟語

「友達心宝」 友達は私の宝大切にしたいの意 (4年生)

平成 22 年 12 月 13 日

広島市立吉島小学校

運動場のフェンス周りにたくさんの鉢植えが並び、小春日和の陽をあびながら今、命を大きく育もうとしています。今年も学年の枠を超えペアによる栽培活動が。

1年生は6年生のお兄ちゃんお姉ちゃんと「プリムラマコイデス」を、2年生は5年生と「パンジー」を、3年生は4年生と「ノースポール」を。

当日の一鉢栽培集会では、栽培委員会の児童から、これら3種の特徴や由来、栽培方法の説明がありました。「プリムラマコイデス」は「サクラソウ」の仲間で、春にピンクや紫、白い小さな花を咲かせると、「パンジー」の名の起源はパンセ(フランス語)にあり、考えるという意味をもっていると、「ノースポール」は金の花とよばれ太陽が当たるとききらきら輝ききれいですよ。

花の苗を植える児童のまなざしは皆優しさに満ちており、特に最後の活動となる6年生は、苗と1年生に優しい言葉をかけながら栽培活動に取り組んでいました。そして鉢にはペアの名前を記した札が添えてありました。

毎週火・金曜日に、ペアによる水やりがおこなわれます。

花とばは
「プリムラマコイデス」
運命を開く
「パンジー」
心の平和
「ノースポール」
誠 実



命の尊さ、前向きに力強く生きることの大切さを、感じ考えた道徳学習が

5年生では、10歳で重い病にかかり11歳で生涯をとじた豊島加純さんの残した詩と絵を題材にした『生命尊重』の道徳学習が。

授業は、事前に調査したアンケート(Q:この世で大切にしたいものは何?)の結果を知ることから始まった。「家族」「友達」そして「いのち」が上位にあがる。

児童からは、「うんうん」と納得する頷きと「やっぱりな」と笑顔が。ところが、加純さんが残した詩と対面して、雰囲気急変する。

病と闘い、死と対峙しながらも、生きる希望をもって力強く生きようとする加純さんの生き様に、周りの人の思いやり、温もりに魅了され深く深く共感する子ども達。

しっとりとした雰囲気の中、児童が深く感じ考えたこの授業は加純さんの左の詩に題をつけることで終わった。

児童のつけた題には『やさしいなみだ』『わたしの幸せ』『人生』『負けるものか』などの名が。そして、「加純さんのノート(詩集)にただ泣いたんじゃなく、加純さんを助けたい、守りたい、力

になりたいという強い思いから流された、やさしい涙だと思ったから」「加純さんはいやなことや泣きごとを何一つ言わず、前向きに生きていこうとしたから」など、名付けた理由が添えてありました。

重いテーマであったこの学習、児童と担任の先生が共に、思いや考えを伝え合い、大切なものを心の中に残し合えた、まさに「協働共豊」な授業でした。

先生がこのノートを見て
なみだを流してくれた
自分が書いたもので
人が泣いてくれる
だから
がんばってか
2003 6・5
13時54分
豊島 加純

♪ 『ことばの歌』(作詞 池田明子)も味わってみてください

「ありがとう」と言ったら 「こらこそ」と答えましょう
それだけで それだけで 私は胸いっぱい
誰かを思って 支えることば それはね たったひとこと
ことばは今 生きている ことばの力を知っていますか
ことばは今 生きている
知ろう! 語ろう! 楽もう! 言葉は皆の宝物 (以後、略)